

比内地鶏の情勢

令和6年3月
畜産振興課

1 飼養動向

(1) 飼養戸数

- 平成20年の149戸をピークに年々減少傾向にあり、令和5年は前年から9戸減の72戸であった。うち82%は、主産地の県北地域が占めている。

(2) 年間生産羽数

- 全国の地鶏等の台頭により、平成28年には510千羽まで減少したが、その後3年連続で増加し、令和元年は551千羽まで回復した。
- その後、新型コロナウイルス感染症の影響により令和2年から4年まで減少したが、コロナ感染症が落ち着いたことで、令和5年は414千羽（前年比103%）に増加した。
- 主産地の県北地域における生産羽数は348千羽で、全体の84%を占めている。

(3) 1戸当たりの年間生産羽数

- 平成24年以降、増加傾向で推移し、令和2年及び3年は減少したが、令和4年が4,951羽、令和5年が5,750羽と増加した。

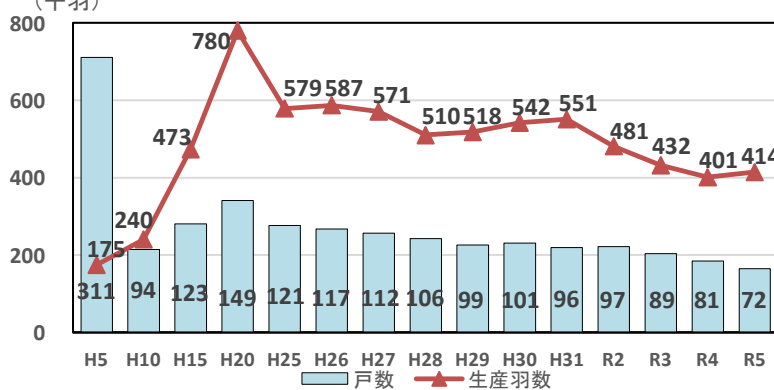
○ 飼養動向の推移

(単位：戸、千羽、%)

年次	H5	H10	H15	H20	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
飼養戸数	311	94	123	149	121	117	112	106	99	101	96	97	89	81	72
前年比	141%	80%	115%	106%	81%	97%	96%	95%	93%	102%	95%	101%	92%	91%	89%
年間生産羽数	175	240	473	780	579	587	571	510	518	542	551	481	432	401	414
前年比	106%	105%	130%	103%	74%	101%	97%	89%	102%	105%	102%	87%	90%	93%	103%
一戸当たり年間生産羽数	563	2,553	3,846	5,235	4,785	5,017	5,098	4,811	5,232	5,366	5,740	4,959	4,854	4,951	5,750
生産羽数前年比	74%	130%	113%	98%	91%	105%	102%	94%	109%	103%	107%	86%	98%	102%	116%

(畜産振興課調べ)

比内地鶏の年間生産羽数及び飼養戸数の推移



○ 市町村別順位 (令和5年)

<生産農家数の多い市町村>

- ①大館市 (26戸)
- ②北秋田市 (17戸)
- ③能代市 (9戸)
- ④由利本荘市 (6戸)

<生産羽数の多い市町村>

- ①大館市 (189千羽)
- ②北秋田市 (97千羽)
- ③由利本荘市 (37千羽)
- ④三種町 (29千羽)

2 流通動向

- 令和5年の流通出荷羽数は425千羽で、出荷先別の割合(羽数)は、県内事業者向けが全体の42%(177千羽)、県外事業者向けが58%(248千羽)であった。

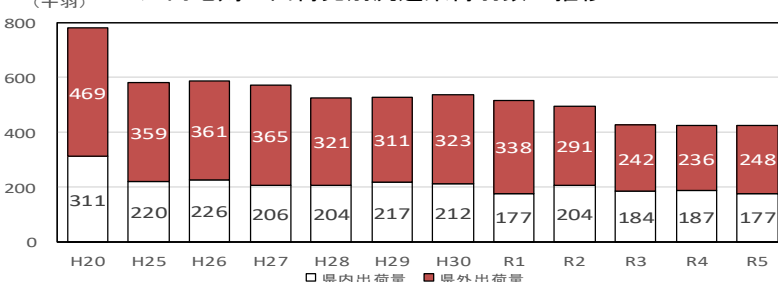
○ 流通動向の推移

(単位：千羽、%、ト)

年次	H20	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
流通出荷羽数	780	579	587	571	525	528	535	515	495	426	423	425
前年比	107%	100%	101%	97%	92%	101%	101%	96%	96%	86%	99%	100%
県内向け出荷羽数	311	220	226	206	204	217	212	177	204	184	187	177
構成割合	40%	38%	39%	36%	39%	41%	40%	34%	41%	43%	44%	42%
県外向け出荷羽数	469	359	361	365	321	311	323	338	291	242	236	248
構成割合	60%	62%	61%	64%	61%	59%	60%	66%	59%	57%	56%	58%
食鳥処理業者期末在庫				113	21	5	12	48	34	40	17	15

(畜産振興課調べ ※食鳥処理業者在庫はH27から調査)

比内地鶏の出荷先別流通集荷羽数の推移



○ 出荷先別割合 (令和5年)

